

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	HX05	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.490	△RG	0.038	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：HX05

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 5 インチ

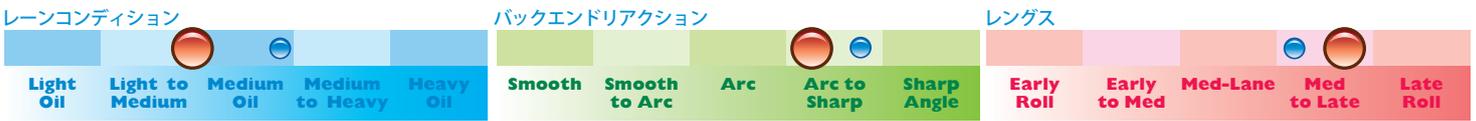
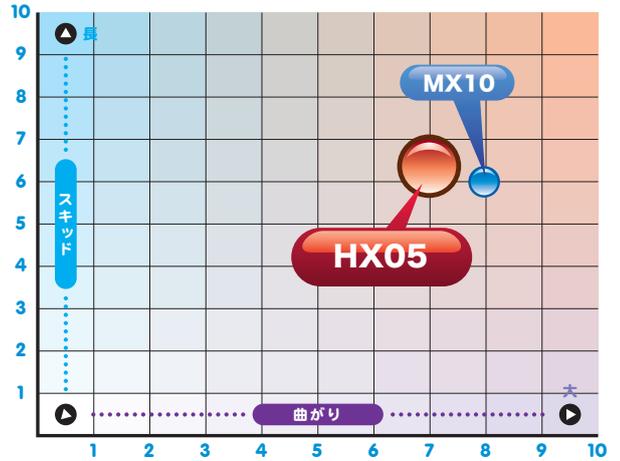
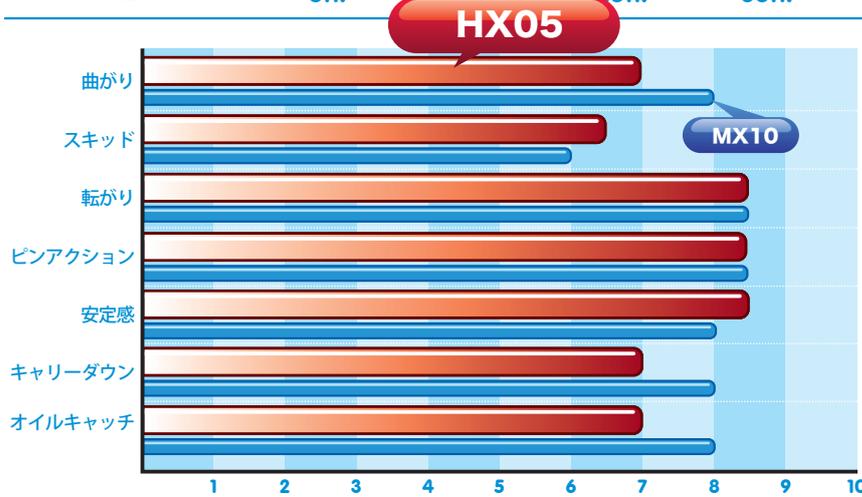
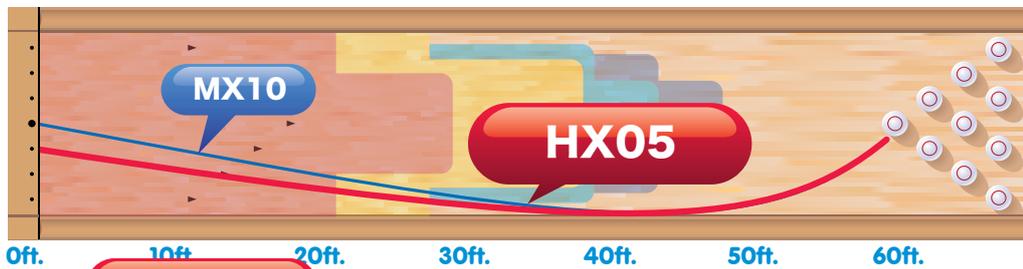
表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

比較対照ボール：MX10

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 5 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤



ボールの評価

今回TRACK社から発売されるHx05は、現在流通している大部分のミディアム領域からやや下のミディアムコンディション以下で絶妙なパフォーマンスと扱いやすい曲がり兼ね備えた、「成功を収められる」ボールとして発売されます。

ボール選びに必要なのは数少ないスペックの中で、「一番良いと思われるボールをピックアップする」ということに他ならないでしょう。そのチョイスに必要な要素は「過去の実績」「カバーストック」や「コア形状」で、使用したことのあるボールの後継や投球してみたかったボールに近いスペックなどが購入の決め手となるのかもしれませんが、今回発売するHx05は、コア形状はTRACK社の中でも一番の実績をもつKINETICに代表される「シャトルコア」。カバーストックにDR-4 Pearlという、DR (Delayed Reponse)というキャッチ力はあまり弱めずに曲がりを遅らせる新開発のカバーストックと搭載しています。実際に投球してみると今まで発売されてきたKINETICのイメージを継承されているのですが、DRカバーストックの特性だと思いますが、レーン上の摩擦を制御できているというか、今までのTRACK社のレパトリーの中では薄いオイルに対応可能なボールに仕上がっていると感じました。このような性能であれば大会の最終シフトにも十分対応が可能ですし、スピードが不足している女性ボウラーにも扱いやすさを感じていただけるでしょう。これでTRACK社が新しく打ち出したLシリーズ、Mシリーズ、Hシリーズが出揃いました。3種とも投げ比べてみるとバランスよくコンディション別に分けて投球することができ、使い分けに迷うこともありません。

また川添奨太郎プロが今年初めてのパーフェクトゲームをMx10で達成するなど、これからのTRACK社のボールから目が離せません。

特記事項

新しいコンセプトで再始動したTRACK社シリーズ。今まで発売された3種類の中では一番遅めのコンディションで使用でき、実績のあるKINETICのパフォーマンスを遅めのコンディションで使用できます。